



グループホーム 火災事故を受けて

今年2月、長崎市のグループホームで火災事故が発生し、当社の加湿器が火元であった可能性が非常に高いことが判明いたしました。まずは事故に遭われた方々や関係者の皆様に心よりお詫びを申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたします。

当社では、事故の究明にあたり、速やかに対策本部を設置し、私自身が本部長として対応にあたるとともに、緊急記者会見を実施し、状況と今後の方針についてのご説明をいたしました。同時に、新聞・折り込みチラシやテレビ等マス媒体を通じて、一般の方々への告知を行いました。このようなりコール周知・告知活動や回収活動は一時的なものばかりではなく、今後も永く継続的に取り組んでいくべきものと認識しています。ご遺族・関係者の皆様のお言葉を真摯に受け止め、再発防止に全力を尽くすことを、ここにお約束いたします。

社会課題の解決に向けて 貢献できる企業へ

社会からの信頼を取り戻すためにも、これを機にTDKとしての今後の「あるべき姿」を再認識し、その実現に向けてより一層の努力を重ねていく所存です。

電子部品業界は、さまざまな分野で社会課題の解決に向けて貢献できる業界であり、その一角を担う企業として、今後さらに高度化・多様化するであろうニーズに対応していくことが我々の使命です。ウェアラブル（装着型）デバイスの登場や多機能化など、情報通信端末が急

確かな価値を提供し、 社会課題の解決に貢献する。 TDKは今後もチャレンジし続けます。

速な進化を続ける次世代情報通信市場、太陽光や風力などの再生可能エネルギーを利用したスマートグリッドなどのエネルギー関連市場へより一層の競争力強化を図り、社会課題の解決に貢献したいと考えています。

2012年度の 重点活動分野での進捗

2012年度は、重点活動項目として定めた分野でも、さまざまな進展がありました。

当社は「技術による世界への貢献」について、希少なレアアースの使用量を大きく削減した磁石の量産化・実用化を確立しました。今後、さらに研究を進め、最終的には全種のレアアース使用量をゼロにした磁石の開発を目指します。

「人材の育成」については、ビジネスグループごと、地域ごと、国ごとにあった壁を取り払うような取り組みを進めました。今後はグループ全体として「TDKのモノづくり精神」を共通の価値観として根付かせ、その上でそれぞれのよいところを発揮できる組織を目指してまいります。

「サプライチェーンにおける社会・環境配慮」については、武装集団の資金源として世界的な問題となっている紛争鉱物に関するポリシーを策定・公開しました。今後も、取引先とともに、責任ある調達に取り組んでまいります。

「地球環境との共生」については、業界団体を通じ、どの電子部品がどれだけCO₂削減に貢献しているかを示す数値基準の標準化を推進してきました。今後、日本で標準化を達成し、引き続き国際標準化にも取り組んでいく

予定です。

スピーディなチャレンジで 持続ある成長を

社内のコミュニケーションをより充実させ、トップからのメッセージをしっかりと全社に浸透させていこうと、全従業員を対象にしたアンケート調査や若手従業員とのフリーディスカッションなど新たな試みも開始しました。

新入社員に対して、私は「入社して間もない時期に何か失敗を体験しなさい。それが成長につながります」という話をします。TDKの今後の成長を支えるのは、言うまでもなく従業員一人ひとりの成長です。失敗を恐れず、スピーディにチャレンジする姿勢を忘れないでほしい。その姿勢が、いわば再びスタートラインに立ったともいえるTDKの、再生と飛躍につながると考えています。

また、今後の持続的な成長のためには、ブランド価値をより高めていくことが必要です。いま世界のエクセレントカンパニーは、IT化とグローバル化の中で独自の競争戦略と強いブランド力を持っています。TDKの創業以来の強みは、独創、つまりオリジナリティを原動力に他社にないものを創り出し、信頼される製品と価値をお客様や社会に提供していることです。研鑽してきた技術とともに独創を追求し、世界に通じるTDKブランドの価値をさらに磨き、極めていくことが、将来にわたる持続的な成長につながるのだと確信しています。

本レポートをお読みの皆様にも、今後のTDKの挑戦にぜひご注目いただき、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

TDK株式会社 代表取締役社長

上 釜 健 夫